

京都で初めて！アルゼンチンアリの生息を確認

アルゼンチンアリ

名前のとおり、南米原産のアリです。働きアリの大きさは、2.5ミリメートルほど、女王アリは5ミリメートルほどです。体色は、黒褐色です。日本では、1993年、広島県の廿日市市で初めて確認されました。その後、広島県内でどんどん広がっています。さらに、山口県、兵庫県、愛知県、岐阜県、神奈川県、大阪府でも生息が確認されています。そのアルゼンチンアリが京都市内でも発見され、定着していることが確認されました。

生態系の破壊者

アルゼンチンアリは、「特定外来生物による生態系等に係る被害の防止に関する法律」で特定外来生物に指定されています。特定外来生物とは、元々日本には生息していなかった生物が日本に定着し、生態系や人の生命・身体、農林水産業へ被害を及ぼし、又は及ぼすおそれがある生物のことです。

アルゼンチンアリが特定外来生物に指定されている理由は、生態系の破壊者だからです。廿日市市の例では、おう盛な繁殖力で生息範囲を拡大し、元々生息していた日本のアリを追い払うことが確認されています。このように自然界で生息するアリの種類が変化してしまうことは、単にアリだけの問題ではなく、他の生物にも重大な影響を与え、在来の生態系までも変えてしまう可能性があるといわれています。

不快な害虫

私たちの生活にとっては、多くの働きアリが家屋内に侵入し、食品に群がったりすることが問題になります。アルゼンチンアリは、毒針を持たないので人を刺すことはできません。しかし、攻撃的な性格で、人をかむことがあります。多くの場合、チクリとする程度ですが、肌の弱い子供や老人には注意が必要です。

多女王多巣性

日本に生息する多くのアリは、一つの巣に1匹の女王アリがいます。ところが、アルゼンチンアリは、一つの巣に多数の女王アリが働きアリと共に生息しています。しかも、それぞれの女王アリは、容易に巣別れをして、新しい巣を作ることができます。こうした生活の仕方を多女王多巣性といいます。おう盛な繁殖力は、こうした多女王多巣性の結果です。



壁面の透き間に出入りするアルゼンチンアリ

発見したときの様子

最初に京都市内で定着を確認したのは、平成20年12月でした。京都市内の多くのアリは、巣内で越冬している時期です。寒い時期にもかかわらず多くのアルゼンチンアリが群れをなして歩いていました。歩いている先に巣を見つけました。石垣の透き間に入っていきます。さらに、付近を観察すると、公園に置いてあるゴミ箱、木切れ、石などの下に巣を確認することができました。このように、物の透き間を巣にするのもアルゼンチンアリの特徴です。

駆除の方法

アリの種類によっては、ベイト剤（毒餌）が有効ことがあります。ベイト剤とは、アリが好む糖類などに殺虫剤成分を混入したものです。京都に定着させてはいけないとの思いから、最初に発見された場所で実験的にいくつかのベイト剤による駆除を試みましたが、いずれも効果が確認できませんでした。また、殺虫剤を直接散布する方法も試みっていますが、著しい効果は確認できていません。効果が表れなかった理由の一つは、多女王多巣性によるおう盛な繁殖力の結果だと思われます。アルゼンチンアリの駆除を試みて、その場所での駆除ができたとしても、その時点で既にあちこちに巣を作っていることが考えられるからです。

今後の注意

現在、生息を確認しているのは、京都市内では伏見区のごく一部の場所のみです。しかし、広島県廿日市市の例などをみると、今後京都市内でも生息域を拡大することが考えられます。どのようなことに注意をすればよいのか考えてみましょう。

最も重要なことは、早期発見です。女王アリや巣が少ないうちなら殺虫剤で駆除することも可能です。冬の寒い時期に多くのアリが列をなして足早に歩いているようなら、アルゼンチンアリの可能性があります。念のために殺虫剤で退治したうえで衛生公害研究所に送っていただければ、アルゼンチンアリかどうかを調べます。メールアドレスあるいはファクシミリの電話番号などを書いていただければ、その結果もお知らせします。

巣になる場所をなくすことも重要なことです。アルゼンチンアリは、人工的な物の透き間を好みます。アルゼンチンアリが見つければ、家の壁やブロックの透き間、植木鉢やプランターと地面の間など巣になる場所をなくすようにしてください。

アルゼンチンアリは、歩いて徐々に生息範囲を広げていくこともできますが、物の移動に伴って移動することも考えられています。アルゼンチンアリの生息が確認されたら、その場所からの他の場所へ物を移動する場合には、細心の注意を払いましょう。

アルゼンチンアリが巣を作る場所の一例



野外のゴミ箱の下



ゴムシートの下



石垣の透き間



堆積した落ち葉の下